

紀

要

第 12 号

1999. 3

財団法人滋賀県文化財保護協会

# 墨書土器にみる古代の近江

濱 修

はじめに

滋賀県出土の墨書土器について以前に小稿をまとめその出土傾向について考察した(濱1996)。その時点では墨書土器の出土状況や器種の分析などはできず、課題を残したままであった。その後、平成9年10月に全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックの埋文研修会において「近江の墨書土器」と題して報告する機会を得、近江の墨書土器をまとめることができた(濱ほか1997)。

今回の報告はその機会に集成した資料をもとに、墨書土器の地域別出土状況、出土遺構、器種や記入部位などから近江の墨書土器の特徴について考えてみた。なお、出土一覽資料については報告書を中心に集成したため見落としや、未報告資料については十分に把握できていないものがある。

墨書土器は土器に墨で書かれた文字や記号を対象としている。古代遺跡出土の文字資料は木簡が代表的で、墨書土器以外では土器に篋で記入された線刻土器や刻書土器がある。また、土器以外では瓦、木器、印章や金属器に線刻、刻印や墨書されたものがある。今回の考察の対象は近世以前の墨書土器で(朱書を含む)、刻書土器や篋記号などの線刻土器、木器への墨書や朱書、瓦の刻印や篋書き文字については主なもののみを参考資料とした。

## 1、墨書土器の概要

県下の墨書土器の出土は162遺跡で1149点を知り得た。墨書土器は刻書土器、線刻土器を含む土器文字資料のうち約9割を占め、文字資料のほとんどを占めている。墨書土器は焼成後に記入されたものがほとんどであるが、刻書や線刻土器は焼成以前に記入されたものが多い。また、線刻土器には×・井などの記号と思われるものも多く、墨書土器とはやや性格の異なるものも含まれる。

滋賀県下に4000カ所を超える遺跡があるが墨書土器の出土遺跡数は全体のおよそ4%に過ぎない。墨書

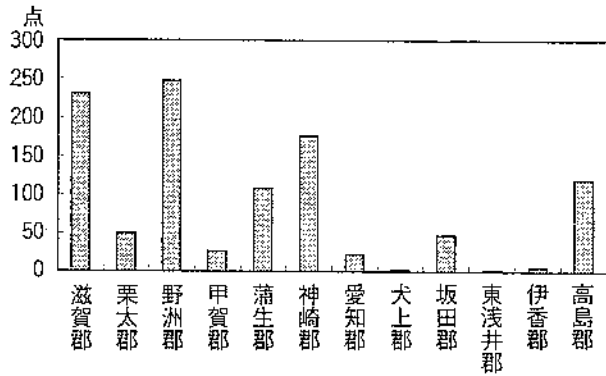
土器は1点のみが出土する遺跡も多いが、出土する遺跡は平均7点弱出土しており、出土する場合はまとめて検出される傾向がある。大量に出土した遺跡では能登川町斗西遺跡の114点、大津市浮御堂遺跡の84点、高島町鴨遺跡の76点、中主町西河原森ノ内遺跡、守山市服部遺跡で各61点などである。そのほか大津市上高砂遺跡、中主町光相寺遺跡、信楽町宮町遺跡、蒲生町野瀬遺跡、マキノ町小荒路十寺遺跡などで25点以上まとめて出土している。市町村別では能登川町179点、大津市160点、守山市、中主町で100点以上出土している。遺跡数が多いにもかかわらず出土報告例がない市町村は竜王町、甲良町、多賀町、伊吹町、安曇川町などである。そのほか高月町4点、八日市市2点、五個荘町2点、日野町1点など遺跡数の割に出土例が少ない。出土点数を現在の市町村を旧郡別に見ると(図1-1)野洲郡が250点と最も多く次いで滋賀郡、神崎郡、高島郡の順となり東浅井郡7点、伊香郡6点と極端に少ない。おもな出土遺跡を見ると北陸道、東海道、東山道の旧街道に沿って分布する傾向が強い。こうした傾向は遺跡の性格とも関連して考える必要がある。

## 2、出土遺跡と遺構

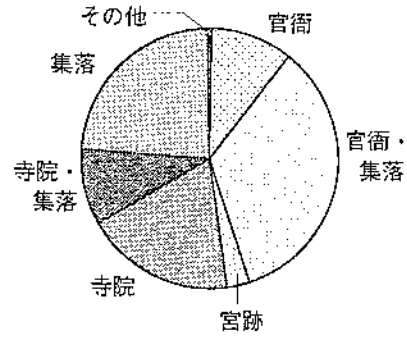
土器の出土遺跡別の分類は前回の分類と大きな変更はない。宮・官衙跡、官衙的集落跡、寺院跡、集落跡、その他(神社・古墳・窯跡)の遺跡である。宮・官衙遺跡では紫香宮跡の宮町遺跡で30点近い墨書土器と多くの木簡が出土している。国衙関連遺跡では野畑遺跡や東光寺遺跡で何点かの墨書土器が出土し、国庁や堂ノ上遺跡では刻印の文字瓦が出土している。郡衙推定遺跡では栗太郡衙の岡遺跡、野洲郡衙の小篠原・安城寺遺跡や高島郡衙の鴨遺跡があるが、鴨遺跡では「大領・次官・主政」など郡衙関係の墨書土器が出土している。

官衙的集落跡とは7世紀後半から10世紀後半にか

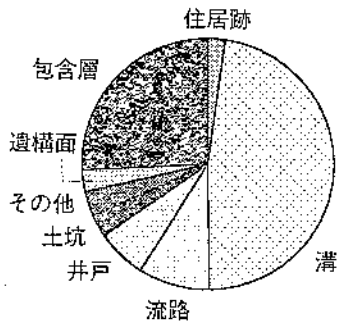
1. 地域別出土点数



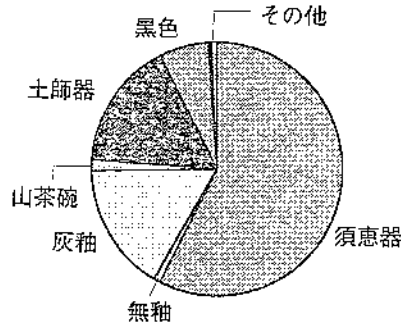
2. 出土遺跡



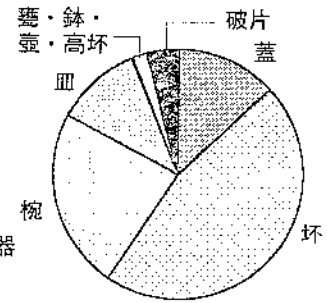
3. 出土遺構



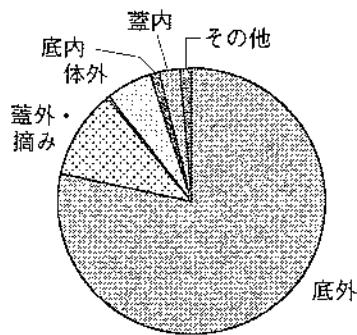
4. 器種構成



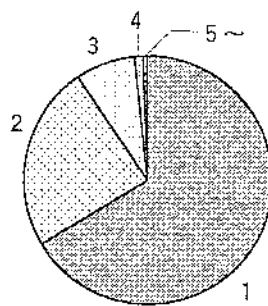
5. 器形



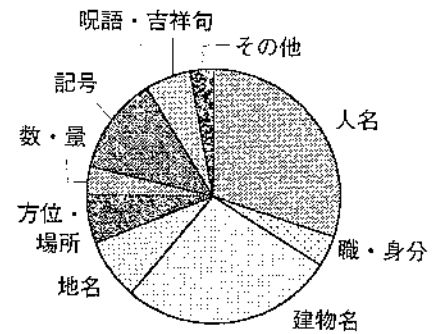
6. 記載部位



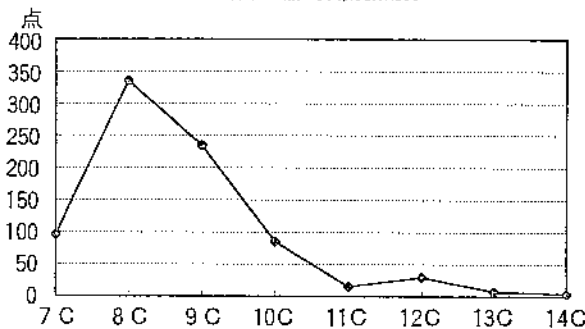
7. 文字数



8. 文字区分



9. 墨書土器時期別点数



10. 線刻・刻書土器時期別点数

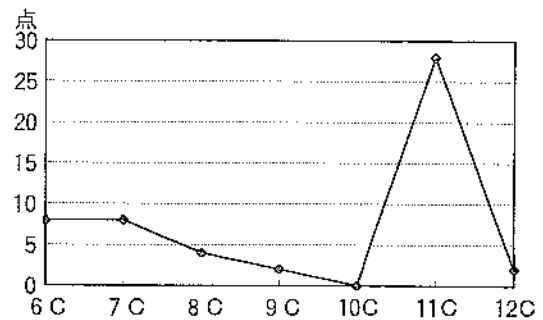


図1 分類別グラフ

けて出現する掘立柱建物群からなる遺構を典型とし、そのほか木簡、墨書土器、硯や帯金具などが出土する地方官衙的要素を持った遺跡である。大橋信弥氏は8世紀以降のこれらの地方官衙的遺跡を律令遺跡と称している（大橋1998）。これらで墨書土器が出土する主な遺跡は草津市大將軍遺跡「稻麻呂」など、守山市二ノ畦遺跡「川原」、服部遺跡「南殿・烏益」など、笠原南遺跡「越殿」など、中主町西河原森ノ内遺跡「主殿者・神主家」など、光相寺遺跡「石邊君」など、安土町内野遺跡「上家」など、能登川町斗西遺跡「大家・中家・小家」など、米原町筑摩湖岸遺跡「月足」など、今津町口置前遺跡「諸上内」など、マキノ町小荒路十寺遺跡「常大家」などがある。いずれも地方官衙またはその出先機関、郷庁、郷倉、関所、御厨などの機能が推定されている。

寺院またはその関連遺跡では大津市浮御堂遺跡「寺」など、上高砂遺跡「南寺」など、野洲町北桜西遺跡「正像」など、蒲生町野瀬遺跡「西一坊」など、愛知川町畑田廃寺「僧寺」などがある。いずれも寺院に関連した「寺、坊、像」などの墨書土器が出土している。一般集落遺跡はまとめて墨書土器が出土する例は少ないが、10世紀以降識字層の増加で在地領主層の館遺構を中心に出土例がみられる。

遺跡別にみると（図1-2）官衙的集落が全体の3分の1を占め、宮・官衙、官衙的集落遺跡を合わせると半数以上がこれらの遺跡から出土している。いわゆる一般集落からまとめて出土する例は少なく、出土例も全体の4分の1ほどである。

出土遺構別では（図1-3）包含層・遺構面出土が170点あり、掘立柱建物からの出土の可能性もあるが、今回はそこまでの確認できていない。出土遺構が確認できた遺物は594点で、そのうちの半数以上の336点が溝や流路遺構から出土している。次いで多い出土遺構が井戸で38点である。以下、土坑17点、住居跡14点である。出土状況はほとんどが廃棄された状態と思われ、特別に祭祀のために埋納した様子は窺えない。県内で最も出土量が多い斗西遺跡ではそのほとんどが5棟の建物の南を流れる古墳時代からの大量の遺物を含む大溝から出土している。館野和己氏は「建物群からの不要品の廃棄場所」で「溝からの大量出土は官衙遺跡の墨書土器の出土

状況に近い」としている（館野1993）。こうした溝からの出土状況は近江での典型として特徴つけることができよう。井戸から出土する遺物は黒色土器が全体の5分の2を占める。井戸の出土遺物は水神などの祭祀に関する遺物が多いが、墨書土器では草津市南平遺跡出土の黒色土器に「ぬ」の墨書があるが、祭祀のために埋納されたものか不明である。なお、井戸出土の38点中には「井」の墨書土器は出土しておらず、「井」=井戸の意には直結しないようだ。また、住居跡出土は1点が掘立柱建物の柱穴からであるが、ほかはいずれも竪穴式住居跡からの出土である。関東地方の竪穴住居跡から大量に出土する例とは大きな相違である。

### 3、墨書土器の分類

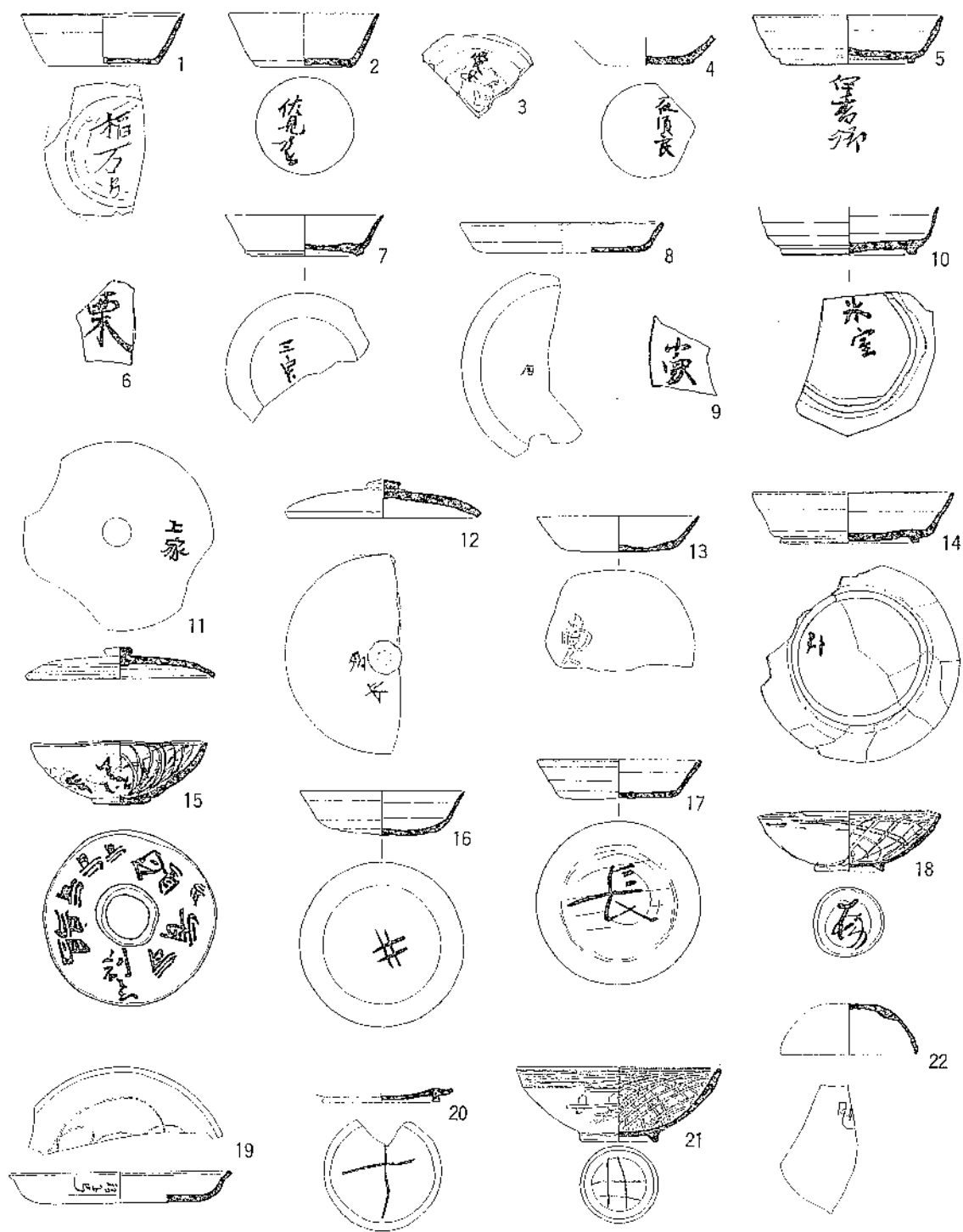
次に、出土した墨書土器の器種・器形・記入部位・文字数などについて集計した。

器種が報告されている1032点中の分類は（図1-4）最も多い須恵器が440点で全体の半数強で、灰釉陶器の126点や無釉陶器と合わせると、全体の5分4のが硬質の土器である。土師器は126点と少なく、黒色土器と合わせての全体5分の1以下である。

器形の特徴では（図1-5）坏身・碗・坏蓋・皿・高坏のいわゆる供膳用土器が全体の9割近くを占め、煮沸用・保存用の壺・甕・鉢は12点にすぎない。墨書土器が供膳具に多いのは墨書土器の特徴で、近江の出土状況は全国的にも共通する。供膳具は個人使用が原則であることから、墨書の記入で使用者個人や使用目的を明確にする必要があった。

墨書が記入される部位は8割近くが底部外面である（図1-6）。次いで多い部位は須恵器の坏蓋外面が約1割で、坏身などの体部外面は6%弱である。東国出土例では体部の内外面に記入される例が多いが、近江では内面記入が6例である。底部外面は器を伏せた状態である非使用時に文字が確認できる必要があった。

墨書土器の文字数では一字記入例がもっとも多く全体の3分の2を占める（図1-7）。一字記入で各遺跡に共通して多く記されているものは「井・寺・上・大・中・本・東・三・十・×」などである。個別の遺跡では浮御堂遺跡の「×」11点、「き」3



- |          |           |               |
|----------|-----------|---------------|
| 1. 大將軍遺跡 | 8. 内野遺跡   | 15. 金剛寺遺跡     |
| 2. 柿堂遺跡  | 9. 斗西遺跡   | 16·17. 大戊亥遺跡  |
| 3. 沓掛遺跡  | 10. 狐塚遺跡  | 18. 總遺跡       |
| 4. 小津浜遺跡 | 11. 内野遺跡  | 19. 内野遺跡      |
| 5. 十里町遺跡 | 12. 大將軍遺跡 | 20. 穴太遺跡      |
| 6. 斗西遺跡  | 13. 金剛寺遺跡 | 21. 加茂遺跡 (線刻) |
| 7. 北堂遺跡  | 14. 沓掛遺跡  | 22. 穴太遺跡 (刻書) |

図2 主な墨書・線刻・刻書土器

点、南平遺跡の「ぬ」3点、服部遺跡の「鳥」14点、西河原森ノ内遺跡の「神」11点、「大」5点、宮町遺跡「美（羹）」3点、斗西遺跡では「家」11点、「栗・十」4点、「中・東」3点、鴨田遺跡の「長」9点、「井」4点、鴨遺跡の「廣」29点、「萬」25点、小荒路十寺遺跡の「常」などがある。これらの一字墨書土器は服部遺跡の鳥＝鳥益、西河原森ノ内遺跡の神＝神主家、宮町遺跡の美（羹）＝羹所、斗西遺跡の栗＝栗家、鴨遺跡の廣＝廣津、萬＝萬宅、小荒路十寺遺跡の常＝常大家の略称であろう。何れも人物や建物を現している。

二字記入では上高砂遺跡「南寺」2点、へそ遺跡「あゆ」3点、服部遺跡「鳥益」2点、笠原南遺跡「越殿」4点、北桜西遺跡「廣寛」2点、光相寺遺跡「三宅」3点、斗西遺跡「厨田」4点・「椋家」2点、長野遺跡「上殿」4点、沓掛遺跡「愛女」2点、普光寺遺跡「日王」4点、筑摩湖岸遺跡「月足」2点、小荒路十寺遺跡「大家」7点・「常大」5点などがある。いずれもそれぞれの遺跡の性格や特徴を現している。

三字記入では大將軍遺跡「稻万呂」3点、大宮遺跡「八田宅」3点、虫生遺跡「虫生宅」2点、普光寺遺跡「日王丸」2点、鴨遺跡「廣津弥」2点、小荒路十寺遺跡「常大家」2点などがあり、いずれも人名や建物名を表現している。その他読解不能文字を含めると45例ほどあり、高野遺跡の「天福来」の吉祥句なども見られるが多くは人物名、建物名である。

四字以上では17例出土している。野畑遺跡「僧国分寺」や光相寺遺跡の「土刀自家」は建物名、柿堂遺跡の「佐見麻呂」などは人物名を表現している。その他五文字以上になると吉祥句や習書・落書や年号を記したものが多い。これらには南滋賀遺跡の「有徳海兎魚大」、吉地薬師堂遺跡「至徳四年九月御新之内」、金剛寺遺跡「鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥／魚の絵／利右エ門」や幸津川遺跡の人面墨書土器に書かれた吉祥句などがある。

#### 4、記載文字の種類

記載される文字の種類では人名、職・身分、建物、地名、方位・場所、数・量、記号、呪語・吉祥句、そ

の他（習字・年号・器名）に分類した（図1-8）。

人名では「稻万呂・知麻呂・飯麻呂・宮麻呂・佐見麻呂」のほか、服部遺跡の「民藏・鳥益」、北桜西遺跡「廣寛」、普光寺遺跡の「日王丸」や鴨遺跡の「廣津弥」など全体の4分の1以上を占め、一文字の「鳥、廣、日、稻」などもこれらの略称であろう。職・身分を表現したものには「大領、次官、主政」が鴨遺跡で、「神主・神」が西河原森ノ内遺跡・鴨遺跡に、「商人」が金剛寺遺跡にある。建物名は「御厨・厨」が宮町遺跡・内野遺跡・斗西遺跡などにあり、「三宅」は北萱遺跡・光相寺遺跡などにみられる。殿が記されるものでは「神殿・倉向殿・宮殿・大殿・越殿・南殿・西殿・倉殿・高殿」など多くの遺跡で出土している。その他「家・寺・宅」などがつく墨書は建物に関係すると思われる。しかし、建物名＝建物内住人と見なすこともでき、建物全体を意味するよりも食器を使用する個人の尊称として墨書を記入した例が多いであろう。地名を表現したと思われるものでは「伊香郷・甲賀・篠原・三河・今西」など現代と共通する地名も多い。野洲郡を意味すると思われる「野洲」は守山市の川原田遺跡と刻書文字であるは守山市益須寺遺跡で報告され、未報告資料であるが守山市小津浜遺跡で「夜須良」の地名墨書が出土している。以下、方位・場所では「東・西・南・北・上・中・下」など、数・量では「一・三・六・十」など、記号では「×・○」など、呪語・吉祥句では「井・南無・天福来・福上弓」などがある。

#### 5、遺跡の変化と年代

墨書土器と刻書・線刻土器の年代は（図1-9・10）墨書土器が7世紀後半に出現し8世紀から9世紀にかけてピークをむかえ、10世紀後半から急激に減少し、12世紀から13世紀にわずかに増加しつつ終息にむかう。こうした状況は畿内周辺にみられる傾向で律令体制の成立・衰退の過程と共通する。近江出土の最古例は守山市今市遺跡出土の返りを持つ須恵器蓋の内面に「阿比留□カ」と記された土器がある。同じく須恵器付き蓋で内面に返りを持つタイプで大津市穴太遺跡から「益」の墨書土器が出土している。およそ7世紀第IV四半期のものと思われる。

このほか、中主町西河原遺跡森ノ内遺跡や光相寺遺跡出土の墨書土器群は出土木簡から7世紀後半の土器も何点か含まれている。8世紀から9世紀にかけては宮町遺跡、大將軍遺跡・赤野井遺跡・川原田遺跡・笠原南遺跡・斗西遺跡・鴨遺跡、大谷南遺跡、野瀬遺跡などおもな宮跡、官衙、官衙的集落、寺院跡から多くの墨書土器が出土する。記載土器はほとんどが須恵器である。10世紀になると律令体制の弱体化に伴って「律令遺跡」や律令的集落が解体し、新たに中世的村落が形成される。これと時期を同じくして灰釉陶器、山茶碗を中心に、11世紀後半から13世紀にかけて黒色土器を中心に墨書土器がみられる。その多くは意味不明の一字記入、「×・ノ・◇」などの記号、「あゆ・ぬ」などの平仮名文字である。こうした状況は地方官衙や寺院周辺の識字層以外の一般民衆に文字文化が浸透してきた結果であろう。また、中島遺跡の「文西家」、新庄馬場遺跡の「平福宅」虫生遺跡の「虫生宅」や大宮遺跡の「八田宅」など館名か建物名を記したものや普光寺遺跡の「日王丸」など人物名を記入した例がみられる。いずれも非律令的な在地の開発領主の館や人物を想起させる墨書名である。さらに、12世紀から13世紀では金剛寺遺跡の黒色土器では「鳥鳥鳥鳥鳥鳥/利右エ門/魚の絵」を表したものの、加茂遺跡に多く出土している線刻土器の「井・×」などはいわゆる吉祥句や呪語を表現したものがあ

このように、墨書土器は7世紀後半に滋賀郡と野洲郡内で初出し、その後同郡内で広がったものが、8世紀には近江の識字層を擁する官衙、官衙的集落や寺院に広がり、10世紀後半を画期として一般集落に拡大していった様相が窺える。そして、14世紀から15世紀代に神仏用祭器と思われる陶磁器にわずかに墨書みられるだけで、その後は染め付け陶器の出現とともに姿を消す。

一方、刻書・線刻土器は7世紀初頭から出現し、墨書土器が終息にむかう11世紀から12世紀にかけてピークを迎える。刻書土器は墨書土器より古く出現し、野洲町桜生七号墳から出土した7世紀初頭の須恵器短頸壺の刻書文字「此者□□首□□」や大津市穴太遺跡出土の坏蓋Hに窺書きされた「厩」などが最古級である。そして、墨書土器は収束にむか

う12世紀にピークがあり、黒色土器などに意味不明の「×・十・井」などの線刻や記号が多く出土する。

## 6、まとめにかえて

近江出土の墨書土器は全国的な出土状況と同じ傾向ではあるが、近江固有の出土傾向を示す例も多い。

遺物が出土する時期は、刻書土器は7世紀初めに出現するが、墨書土器は7世紀後半に出現し8世紀から9世紀に宮跡・官衙、官衙的集落などを中心に盛行し、10世紀には収束にむかう。こうした状況は全国的な傾向であるが、近江では点数は減少するが11世紀から13世紀になっても集落遺跡を中心に黒色土器などに一文字、平仮名、記号や吉祥句の墨書土器や線刻土器が見られる。

出土状況では滋賀郡、野洲郡、神崎郡を中心に多く出土し湖北地域での出土が少ない。これは墨書土器が多く出土する官衙的遺跡が湖南地域に集中しているためである。遺跡別では官衙や官衙的集落で多く出土し、主要道周辺に集中することも律令体制下の墨書土器の特徴を現している。また、出土遺構は溝がもっとも多く、宮都や官衙遺跡の出土状況の特徴と共通する。これは8・9世紀に宮町遺跡や斗西遺跡など宮跡や官衙的集落から大量に出土するためである。関東地方では共通文字の墨書土器が集落単位や住居跡単位で出土することから、村落論や世帯共同体の実態に迫る考察がある(鬼頭1989)。近江ではまとめて出土する例が官衙的集落中心のため、村落での墨書土器の使用法は今後の検討課題であろう。器種別の検討では10世紀までは須恵器の坏身の10世紀以降は黒色土器に多く記される。記入部位は底部外面がほとんどで食器を伏せた状態を意識したものであるが、吉祥句は人面墨書土器と同じく器の外面に記載し見せる事を目的としている。文字数では一字記入が最も多いが、10世紀までは複数文字が多く10世紀以降は線刻文字を含め一文字記入が増加する。文字の意味は人名が最も多く、墨書することで食器を銘々器に使用するためと思われる。関東地方の一般集落から出土する墨書土器はほとんど祭祀や儀礼行為の使用例で報告されている(高島1997)。近江では一般集落での出土例は在地首長の館や首長名を記載した例以外は、祭祀行為が明確になる資料

は少ない様である。近江では11世紀以降に集落遺跡から出土する墨書土器や線刻土器のなかに、中世的な村落の結合を解明する糸口がありそうである。

以上、近江出土の墨書土器を集計しその出土傾向についてまとめた。全国的にこうした基礎作業は出来上がりつつある。県下全域の墨書土器を網羅することはできなかったが、今後の調査の検討資料に利用していただけたら幸いである。

参考資料の出典一覧は既刊の報告書を参考にし、「未」とあるものは未刊行の資料を調査担当者の御厚意で報告させてもらった。また資料収集、小論文作成に当たっては以下の方々には御世話になった。

(敬称略)

大崎 哲人、大橋 信弥、兼康 保明、  
北村 圭弘、黒坂 秀樹、小島 孝修、  
谷口 智樹、辻 広志、辻川 哲朗、  
林 純、伴野 幸一、福田 敬、  
松村 浩、造酒 豊、山尾 幸久、  
山田 謙吾

#### 参考文献

- 大橋信弥「近江の律令遺跡の諸問題」『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書X X-3 内野遺跡Ⅱ』滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（以下滋賀県・協会）1998
- 「神奈川県の墨書土器について」『かながわの考古学第5集』神奈川県立埋蔵文化財センター 1995
- 鬼頭清明「郷・村・集落」『国立歴史民俗博物館研究報告第22集』1989
- 坂井秀弥「律令以降の古代集落」『歴史学研究No681』歴史学研究会 1996
- 佐野五十三「墨書土器観試論」『10周年記念論文集』滋賀県埋蔵文化財調査研究所 1995
- 清水みき「墨書土器の機能について—都城（長岡京）の墨書土器を中心に—」『研究紀要第2号』向日市文化資料館 1987
- 高島英之「墨書土器が語る在地の信仰」『歴史学研究No703』歴史学研究会 1997
- 館野和己「斗西遺跡の墨書土器群について」『能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集 斗西遺跡（2次調査）』1993
- 仲山秀樹「墨書土器と集落論」『歴史評論No538』1995
- 橋本義則「地中から出た新しい文字史料をめぐって」『争点日本の歴史3』新人物往来社 1991
- 平川南ほか「古代集落と墨書土器」『国立歴史民俗博物館研

究報告第22集』1989

平川南ほか「特集墨書土器の世界」『月間文化財No362・363』文化庁文化財保護部 1993

平野修「山梨県内の墨書土器と線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第4集』1992

濱修「古代遺跡と出土文字資料」『紀要第9号』滋賀県文化財保護協会 1996

濱修ほか「資料集」第3回近畿ブロック埋文研修会 1997

#### 出典

- ① 岡本武憲「近江出土の墨書土器について」『滋賀県埋蔵文化財センター紀要3』滋賀県埋蔵文化財センター（以下県センター）1989
- ② 「大津市野畑遺跡第二次調査報告」『滋賀県埋蔵文化財調査年報平成4年度』滋賀県教育委員会（以下滋賀県）1994
- ③ 「檀木原遺跡発掘調査報告書Ⅲ」滋賀県・協会 1989
- ④ 「湖西線関係遺跡発掘調査報告書」滋賀県 1973
- ⑤ 「大津市埋蔵文化財調査報告書13・15・20・24・25」大津市 1988・1989・1992・1994
- ⑥ 「びわ湖と埋蔵文化財」水資源公団 1984
- ⑦ 「志賀町埋蔵文化財分布調査報告書」志賀町教育委員会 1982
- ⑧ 「草津市文化財調査報告8」草津市教育委員会（以下草津市）1984
- ⑨ 「大地からのメッセージ—湖南の考古資料展—」滋賀県立安土城考古博物館・草津市ほか 1997
- ⑩ 「下ノ笠堂遺跡・馬場遺跡・上笠遺跡」『草津市文化財調査報告書22』草津市 1994
- ⑪ 「草津市下寺観音堂遺跡」『滋賀県文化財調査年報51年度』滋賀県 1978
- ⑫ 「大將軍遺跡発掘調査」『草津市文化財年報26平成6年度』草津市 1996
- ⑬ 「北笠遺跡発掘調査報告書」滋賀県・協会 1994
- ⑭ 「御倉遺跡発掘調査報告書」滋賀県・協会 1998
- ⑮ 「矢倉口遺跡発掘調査概要」草津市 1989
- ⑯ 「岡遺跡発掘調査報告書1次・2次・3次調査」栗東町教育委員会・滋賀県栗東町文化体育振興事業団 1990
- ⑰ 「栗東町埋蔵文化財発掘調査1990・1992・1993・1994・1996年度年報」栗東町教育委員会・滋賀県栗東町文化体育振興事業団1991・1992・1993・1995・1996・1997
- ⑱ 「高野遺跡発掘調査報告書」滋賀県・協会 1987
- ⑲ 「赤野井遺跡」『滋賀県埋蔵文化財調査年報昭和51年度』滋賀県 1979
- ⑳ 「特別展『守山の遺跡を掘る2』」守山市埋蔵文化財センター 1997
- ㉑ 「守山市文化財調査報告書第22・31冊」守山市教育委員



- 会（以下守山市）1985・1988
- ② 『服部遺跡発掘調査概報』滋賀県・守山市 1980
- ③ 『夏期特別展－奈良時代の野洲郡』守山市埋蔵文化財センター 1989
- ④ 『大宮遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1991
- ⑤ 『笠原南遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1987
- ⑥ 『石田三宅遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1991
- ⑦ 『欲賀西遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1992
- ⑧ 『今市遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1996
- ⑨ 『野洲町文化財資料集』野洲町教育委員会 1981-2、1990-2、1994-1
- ⑩ 『中世集落を掘る』野洲町立歴史民俗資料館 1992
- ⑪ 『久野部遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1977
- ⑫ 『中主町文化財調査報告書第5・9・12・24・30・36・37・41・45集』中主町教育委員会 1986・1987・1990・1993・1994・1995
- ⑬ 『県道荒身上野近江八幡線改良工事に伴う中主町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ』滋賀県・協会 1994・1995
- ⑭ 『信楽町文化財報告書第3・4・8集』信楽町教育委員会 1989・1990・1994
- ⑮ 『近江八幡市埋蔵文化財調査報告書Ⅲ・Ⅹ・ⅩⅩ・ⅩⅩⅠ』近江八幡市教育委員会 1984・1986・1990
- ⑯ 『加茂遺跡・…ノ坪遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1994
- ⑰ 『内野遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ』滋賀県・協会 1997・1998
- ⑱ 『蒲生町文化財資料集4・7・10・13』蒲生町教育委員会 1986・1989
- ⑲ 『八日市市文化財調査報告2』八日市市教育委員会 1983
- ⑳ 『能登川町埋蔵文化財調査報告書第2・8・22・31・36・37・42・43・45集』能登川町教育委員会 1985・1991・1993・1995・1997・1998
- ㉑ 『鯉遺跡発掘調査報告書』愛知川町教育委員会 1980
- ㉒ 『芝原遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1995
- ㉓ 『妙楽寺遺跡発掘調査報告書Ⅲ』滋賀県・協会 1989
- ㉔ 『米原町埋蔵文化財調査報告書Ⅴ・Ⅶ・ⅩⅢ』米原町教育委員会 1986・1988・1989
- ㉕ 『近江町文化財調査報告書第8集』近江町教育委員会 1991
- ㉖ 『長浜新川中小河川改修工事に伴う発掘調査報告書Ⅴ』滋賀県・協会 1997
- ㉗ 『美園遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1975
- ㉘ 『今津町文化財調査報告書第3集』今津町教育委員会 1984
- ㉙ 『一般国道161号線（湖北バイパス）建設に伴う発掘調査報告書』滋賀県・協会 1995・1997
- ㉚ 『一般国道161号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ』滋賀県・協会 1990・1992・1993
- ㉛ 『鴨遺跡』滋賀県・協会・高島町教育委員会 1980
- ㉜ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ-4』滋賀県・協会 1979
- ㉝ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ-3・8』滋賀県・協会 1980
- ㉞ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ-3』滋賀県・協会 1982
- ㉟ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅠ-1・2』滋賀県・協会 1984
- ㊱ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅡ-8』滋賀県・協会 1985
- ㊲ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ-2・3・4』滋賀県・協会 1986
- ㊳ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ-1・3・4』滋賀県・協会 1987
- ㊴ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅤ-2』滋賀県・協会 1989
- ㊵ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅦ-7、ⅩⅩ-8』滋賀県・協会 1991・1993
- ㊶ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅧ-2』滋賀県・協会 1991
- ㊷ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅧ-6』滋賀県・協会 1990 ほか
- ㊸ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅧ-6』滋賀県・協会 1990
- ㊹ 『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅩⅣ-9』滋賀県・協会 1997
- ㊺ 『平成8年度調査埋蔵文化財展』県協会・県センター 1997
- ㊻ 『滋賀県埋文ニュース第199号』県センター 1996
- ㊼ 『滋賀文化財だよりNo29』県協会 1979
- ㊽ 『滋賀文化財だよりNo44』県協会 1980
- ㊾ 『滋賀文化財だよりNo99』県協会 1985
- ㊿ 『滋賀文化財だよりNo116』県協会 1987
- ① 『滋賀文化財だよりNo136』県協会 1989
- ② 『滋賀文化財だよりNo168』県協会 1992
- ③ 『一般国道161号線（西大津バイパス）建設に伴う穴太遺跡発掘調査報告書Ⅱ』滋賀県・協会 1997
- ④ 森隆「近江国野洲郡衙遺跡の基礎的考察」『古代文化9』（財）古代学協会 1997
- ⑤ 『県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅶ-3』滋賀県・協会 1992
- ⑥ 『木曾遺跡現地説明会資料』滋賀県・協会 1994
- ⑦ 『馬淵遺跡発掘調査報告書』滋賀県・協会 1992

- ⑦⑧ 『八坂東遺跡』滋賀県・協会 1995 県・協会 1996  
 ⑦⑨ 『南滋賀遺跡』滋賀県・協会 1993 ⑧⑩ 『ほ場整備関連遺跡発掘調査報告書X X I - 6』滋賀  
 ⑧① 『桜生古墳群発掘調査報告書』滋賀県・協会 1993 県・協会 1993  
 ⑧② 『ほ場整備関連遺跡発掘調査報告書X X III - 4』滋賀

墨書土器出土一覧表

No	市町村	遺跡名	内容	遺物時期	遺跡種別	出典
1	大津市	野畑	十・大・宅・日佐・大友カ・宅・安口 卜田・国分僧寺	8C~9C	官衙	②
2		東光寺	草・上・麻呂・胃所・□□椀	7C後~11C	官衙・集落	①
3		菅池	高□	9C	官衙・集落	未
4		国昌寺	国		寺院	①
5		橙木原	浄・□	8C	瓦窯跡	③
6		穴太	十・本・益・安・多・大田・□太	7C後~8C	集落・寺院	⑤・⑦⑧
7		穴太廃寺	大□	8C	寺院	①
8		崇福寺跡	□寺	8C~9C	寺院	①
9		南滋賀	有徳海兎魚大・兎・春・太□・人カ	7C後~10C	官衙・集落	④・⑦⑧
10		滋賀里	北山江空		集落	①
11		上高砂	勢・飯カ・君カ・井・中・一・上・南寺・一井 一井・南前・勢東・中□・真□・火菌 宮万呂・山大□・大口上・真□□	8C~10C	寺院・集落	⑤
12		大谷	☆	10C	集落	⑤
13		大谷南	今口	9C	集落	⑤
14		浮御堂	乃・大・東・本・寺・右・周・金・中・井 十・大・右・七・ヒ・ヤ・キ・×・侍カ・申カ 赤カ・舎カ・新カ・三カ・井カ・掃案・中東 上東・大一・××・俵□・□平・万□・□東 今□・口中・井口・十□・天□・□宅・竹 □坊・北村カ・朝妻カ・清抜カ	9C~12C	寺院	①・⑥
15	志賀町	大教寺野	霊山		寺院	⑦
16	草津市	志那中	る	8C	集落	⑧
17		野路岡田	上		官衙・集落	①
18		中沢	下・久呂	8C~9C	集落	①・⑨
19		南平	ぬ	12C	集落	⑨
20		上笠	六・十	12C	集落	⑩
21		馬場	八カ	12C	集落	⑩
22		下寺観音堂	上・稻依・白□	8C	寺院	⑪
23		覚音寺跡	上坊・上之	13C~14C	寺院	⑫
24		大將軍	南・五・美・長・郷(倭)長・稻万呂	8C	官衙・集落	⑫
25		北萱	三雲・三宅	8C	集落	⑬
26		御倉	郡家ノ有・田原	8C	集落	⑭
27		矢倉口	*	8C	集落	⑮
28	栗東町	岡	宋・張人カ	9C~10C	郡衙	⑯
29		下鈎	大	8C	集落	⑰
30		狐塚	氷室・大殿・上乙(乞)	8C	集落	⑰
31		高野	了会カ・天福来	8C	集落	⑰・⑱
32		手原	會	10C	官衙・集落	⑰
33		霊仙寺	天・安島	12C・15C	集落	⑰
34		緒	大・あゆ	12C	集落	⑰
35		蓮台寺	□□	10C	寺院跡	⑰
36	守山市	赤野井	瓦・内・大・正丁・大田・都家カ	8C	官衙・集落	⑲・⑳
37		杉江	□朱	9C	集落	①
38		吉身西	井	8C	集落	①
39		中島	橋家・朱佳・家由カ・文西家・又西□	10C	集落	㉑



No	市町村	遺跡名	内 容	遺物時期	遺跡種別	出 典	
87	安土町	辻野	僧・夫・丈カ・坏カ・月カ・秋安	9C~10C	集落・寺院	未	
88		内野	玉・寺・子・男・厨・上家・乙□・卅・福上弓 ×/右/×	8C~9C	集落・官衙	②⑦	
89	蒲生町	上出A	高殿カ	8C	集落	未	
90		佐久間	正月	8C	集落	①	
91		宮川アリララジ	径カ	8C	集落	②⑦	
92		川合古墳群	林・橋カ	8C	集落	③⑧	
93		野瀬	春・寺・赤・屋・神・申・京・有・日・一・封・本 造佛・中厨・彼寺・□屋・相□・常□□・冨 □本寺・西一坊・東一坊・邸	8C後	集落・寺院	③⑧	
94	日野町	麻生	メ	12C	集落	①	
95		杉ノ木	田井・東田・田司家	8C	集落	⑦①	
96		法堂寺	秋カ		集落	①	
97		田井	杖カ	8C	集落	③⑧	
98		田井・杉ノ木	長	8C	集落	③⑧	
99		内池	□		集落	⑤④	
100		八日市市	内堀	□	集落	③⑧	
101		能登川	建部城	α	13C	集落	⑥④
102		斗西	井・屋・加・家・間・栗・高・歳・老・十・前・大 中・東・泉・本カ・厨・厨田・西家・中家・小家 大家・栗家・椋家・甲賀・梓山・下足・井上 物生・田坂・真 ・ 家・占□・東□・□家 □栗・□七・□阿占カ・殿小カ・知麻呂 □麻呂・桜本嶋カ	8C~9C	集落・官衙	④⑩	
103		五個荘町	柿堂	稲・中・家・酒カ・田中・佐見麻呂	7C後~8C	集落	④⑩
104	正楽寺		又・キ	12C	集落	④⑩	
105	宮の前		ヤ		集落	④⑩	
106	法堂寺		仲家	9C	集落	④⑩	
107	横受		大安	8C~10C	集落	④⑩	
108	林・石田		Φ・ノ・×	12C	集落	④⑩	
109	上山神社		□安元年	12C	寺社	④⑩	
110	奈良木		□		集落	①	
111	山本		林 or 坏	10C~11C	集落	未	
112	泰荘町		軽野塔ノ塚廃寺	寺・大		寺院	⑤②
113	愛知川町	沓掛	愛女・中	9C	集落	④①	
114		鯉	郡	8C	集落・官衙	④①	
115	市	□	12C	集落	①		
116	彦根市	畑田廃寺	寺・大・貴・弥・三河・僧寺	9C~13C	寺院	⑤②	
117		長野	寺・○・㊦・上殿	8C	集落・官衙	⑤⑤	
118		芝原	□□□	8C~9C	集落	④②	
119		稲里	□福□	9C	集落	未	
120		八坂東	寺	8C	集落・寺院	⑦⑧	
121		妙薬寺	加上・加	10C	集落	④③	
122		普光寺	寺・中・奥カ・幸カ・舎カ・市カ・田家カ 日王・日王丸・云/日王丸	10C~12C	集落	未	
123		多賀町	木曾	官	10C	集落	⑦⑥
124		米原町	筑摩湖岸	郡・月足・×	8C~9C	官衙・集落	④④
125			入江内湖	東・錦谷	9C~10C	集落	④④
126	近江町	下定使	飯・富カ・穴大主カ・三の×カ	8C末~9C	集落	④④	
127		孤塚	金門・町	10C	集落	①	
128		浄蓮寺	上	11C	集落・寺院	④⑤	
129		世継	田村・穴目	9C	集落	⑤③	
130		正恩寺	e	11C~12C	寺院	⑤③	
131		法勝寺	山田	11C	集落・寺院	①	
132		埋塚	眼カ		集落	①	
133		長浜市	金剛寺	□		集落	①

No	市町村	遺跡名	内容	遺物時期	遺跡種別	出典
134		高田	小家	8C	集落	⑥7
135		国友	井	9C~10C	集落	⑥7
136		十里町	寺・イ・伊香郷	8C	集落	⑥7
137		新庄馬場	平等・北家・平福宅	10C	官衙・集落	⑥7
138		大戌亥	長・中・下・文・井・家・寺・ ・ ・□村寺	9C	集落	④6
139		鴨田	長・井・中・上	8C	集落	④6
140		八幡東	飯麻呂内	9C	集落	①
141		森・八角堂	井口奥	9C	集落	①
142	虎姫町	五村	一八	12C	集落	⑤3
143	高月町	渡岸寺	□		集落	①
144		高月北	□		集落	⑤9
145		大円寺	□	10C	集落	未
146		柏原	今西	10C	集落	⑥7
147	木之本町	黒田	井		集落	①
148	余呉町	松田	□		集落	①
149	湖北町	延勝寺湖底	上・α・大□	9C~10C	集落	未
150		尾上浜	e・×・田大・博士□	9C~10C	集落	未
151	マキノ町	小荒路十寺	寺・刀・井・弓・寸カ・常・常大・大家・□太	9C	官衙・集落	⑤6
152			□一・○○・常大家			
	今津町	日置前	嶋鮫・君手・角鹿・諸上内	8C~10C	官衙・集落	④8・④9
153		弘川	大	11C	集落	⑤3
154		構	持	9C	集落	⑤5
155		美園	□		官衙・集落	④7
156		酒波三つ又	上	15C	集落	④9
157	新旭町	針江	政所		集落	①
158		針江南	□茵寺	9C	集落	④7
159		針江川北	南無□	15C	集落	⑤0
160		正伝寺南	南・上・加□・大○・中臣家	9C	集落	⑤0
161	高島町	永田	媛・志津	8C	官衙・集落	⑤6
162		鴨	廣・萬・大・主・寺方・西市・成中・今東・廣津 萬宅・政所・西殿・神主・大領・次官・主政 山知家・大主人・廣津弥・大領/大領/大領	9C~10C	官衙	⑤1

主な刻書土器・線刻土器出土表

No	市町村	遺跡名	内容	遺物時期	遺跡種別	出典
1	大津市	上高砂	一井・□・×	9C	寺院・集落	⑤
2		大谷	サ	7C後	集落	⑤
3		崇福寺跡	貞・伴・鑄・無主	8C~9C	寺院	①
4		穴太	鋳カ	7C	寺院・集落	⑦3
5	栗東町	辻	寺	8C	集落	⑦7
6	守山市	赤野井	赤身・大吉・正丁・左家	8C	集落	②2
7		益須寺	野洲・近江	8C	寺院	②3
8		中島	夫	10C	集落	②1
9	野洲町	桜生古墳群	此者□□首□□	7C	古墳	⑥0
10	中主町	光相寺	康□□□□□□久田日作毛比也	8C	官衙・集落	③2
11	信楽町	宮町	□厨司水	8C	官跡	③4
12	近江八幡	加茂	井・×・=・…・井・井	12C	集落	③6
13	菟生町	野瀬	有・×・井・*	9C	集落・寺院	③8
14	能登川	正楽寺	×・キ	12C	集落	④0
15	甲良町	尼子西	上斐(桑)手	9C	集落	④1
16	米原町	筑摩湖岸	井	8C	集落	④4
17	湖北町	八日市	大	7C後	集落	①

## 編集後記

今回は、縄文時代から中世までの論考、および歴史学そのものに関する問いかけを掲載しました。——時は世紀末、新たな一世紀を我々はもうすぐ迎えようとしています。未来と現在を真剣に考え、そのために過去のデータを蓄積していく。それが文化財保護・考古学に携わる我々の責務の一つだと思われます。本号がその一助になるのを願ってやみません。(S)

平成11年3月

### 紀要 第12号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会  
大津市瀬田南大苅町1732-2  
Tel(077)548-9780・9781

印刷・製本 富士出版印刷株式会社  
大津市札の辻4-20  
Tel(077)523-2580 Fax(077)524-6668